



月刊バイブル（世界のベストセラー、聖書のトリビア）

第 41 号

発行：レムナントキリスト教会

価格：100円（送料込みで200円）

〔目次〕

- ◎ 聖書からのメッセージ：「蛇の惑わし」 エレミヤ
- ◎ 聖書の中の人々「ロト」
- ◎ イエス・キリストに出会う「捕えられたイエスと逃げた弟子達」
- ◎ キリストを信じた体験談「バスの待合所で」 by S
- ◎ 聖書の教えのエッセンス
- ◎ 聖書に関する有名人のことば： ウードロウ・ウイルソン

＜聖書からのメッセージ＞

「蛇の惑わし」 by エレミヤ

創世記2:16 神である主は、人に命じて仰せられた。「あなたは、園のどの木からでも思いのまま食べてよい。

2:17 しかし、善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べるその時、あなたは必ず死ぬ。」

3:1 さて、神である主が造られたあらゆる野の獣のうちで、蛇が一番狡猾であった。蛇は女に言った。「あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。」

3:2 女は蛇に言った。「私たちは、園にある木の実を食べてよいのです。

3:3 しかし、園の中央にある木の実について、神は、『あなたがたは、それを食べてはなら

ない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ。』と仰せになりました。」

3:4 そこで、蛇は女に言った。「あなたがたは決して死にません。

3:5 あなたがたがそれを食べるその時、あなたがたの目が開け、あなたがたが神のようになり、善悪を知るようになることを神は知っているのです。」

3:6 そこで女が見ると、その木は、まことに食べるのに良く、目に慕わしく、賢くするというその木はいかにも好ましかった。それで女はその実を取って食べ、いっしょにいた夫にも与えたので、夫も食べた。

本日は蛇の惑わしという題でメッセージしたいと思います。聖書は神の存在に関して語る書です。しかし、登場するのは神だけではありません。私たちがよく、聖書を読んでい、

「蛇の惑わし」 by エレミヤ

くと、別の存在すなわち神のことばや、教えを疑わせたり、人を惑わす存在である悪魔やサタン、蛇と呼ばれる存在に関しても書かれていることがわかります。サタンはどのようにして人を惑わすのでしょうか？冒頭のテキストがそのわかりやすい例です。

上記テキストの中では、まず神が正しいことば、真実のことばを語ります。神は、善悪を知る知識の木に関して、人に警告を与え、「この木からとって食べるなら必ず死ぬ」といわれました。これは、神のことばであり、間違いようもなく、正しい真理のことばなのです。さて、このようなことばを人であるアダムは神から聞き、それを妻であるエバにも伝えたのです。

そして、そのエバに対して蛇すなわちサタンが惑わしや揺るがしをおこないました。彼は間違いのない神のことばに関して「**あなたがたは、園のどんな木からも食べてはならない、と神は、ほんとうに言われたのですか。**」と語り、疑問を抱かせようと彼女に試みたのです。

そして、その惑わしに対して、エバの回答は少しあやふやな、神のことばから少しずれたものとなっています。彼女は「**神は、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけなからだ。』と仰せになりました。**」と語っています。彼女は、「それに触れてもいけない。」などと神が語っていないことばを付け加えています。また「あなたがたが死ぬといけなからだ」と弱めた表現をしています。神は「それを取って食べるその時、あなたは必ず死ぬ。」と食べれば死ぬことを断定していたのに、彼女は死ぬ可能性もある（死なない可能性もある）、と弱めた表現をしています。そして、このようにあやふやなことを語るエバの心を見透かしたように、蛇であるサタンは、「**あなたがたは決して死にません**」として嘘を断定的に語ったのです。その嘘は彼女の心に入り、最終的に惑わされた彼女もまた夫であるアダムも、その実を食

べてしまいました。その結果、神のことばどおり、死はアダム、エバに襲い掛かるようになりました。彼らは本来死ぬべきではなかったのですが、しかし、死ぬようになってしまったのです。

＜今も蛇、サタンは人を惑わす＞

これらの聖書の箇所を通して私たちが学ぶべきことは何でしょうか？それは、一つは神は必ず間違いのない真理を語るということです。神は今でもその聖書を通して我々に対して、人生や死後の世界、神の存在、人が救われる道に関して真理を語り、正しい方向を語られます。その神のことばは、この混沌としたあらゆる偽りや、間違いが浸透した世界において、唯一の光や真理なのです。

そして人がその神のことばに従っていくなら、私たちは正しい道を見出し、歩むべき方向を理解し、この人生において何が正しいかを理解することができるはずなのです。しかし、聖書はさらにこの世には蛇、サタンの存在していることをも語っていることを我々は理解しなければなりません。その神の真理や、神のことばを疑わせようとするサタン、うまい屁理屈で人を惑わす狡猾な蛇、サタンの存在はこの世において許されているのです。最初の人間、アダムとエバが生活していた楽園のようなエデンの園のその真ん中に蛇は登場し、狡猾なことばで彼らをだましました。

そうです、蛇の存在、登場は神により許されているのです。しかし、何故神はこのような蛇や悪魔の存在を許されたのでしょうか？私が思うにその理由は、「試みを受け、なおかつ神のことばを真実とする人々」を神が求めているからだと思われます。

難関の大学は難しい入学試験を行います。何故でしょう？それは、入学試験をおこなわなければならない受験生が実力があるのか、選ぶことはできないからです。彼らの実力をはか

「蛇の惑わし」 by エレミヤ

ることができないからなのです。同じ意味あいで、試みるもの、サタンを通して、その人の神のことばに対する忠実さや本音や真の心が表れるのです。残念ながら、エデンの園においては、エバの真の心があらわになり、彼女が正しく神のことばにとどまっていなかったことが露呈してしまったのです。

＜今の時代も蛇、サタンの存在は許されている＞

サタンが人を試みること、それはアダム、エバの時が終わったわけではありません。今の時代も同じであり、今も多くの人はサタンにより、試みられ、その人の真の心は試されています。今の時代において、神のことばである聖書は全世界に広がっています。今では聖書は1000以上の言語に訳されており、誰でもその国のことばでこの書を読むことができるのです。しかし、一方、神のことばに反する蛇の様な教えや、知識、学者、常識も大いに広がっています。

いわく人は偶然にできたとする進化論、神は存在しないとする無神論、また死後の世界などない、人は死んだら無になるという考えなどです。これらは、今の世界において許されているのです。神のことばや教えに真っ向から反対する悪魔的な教えや、学問、教師はその存在が許されているのです。それは、エデンの園において蛇の存在が許され、彼が人を堂々と惑わすことが許されたように、これらの教えは許されているのです。

新約聖書を読むとき、イエス・キリストが荒野で悪魔の試みを受け、それに勝利したことが描かれています。そうです、イエス・キリストも試みとは無縁ではなかったのです。そうであるなら、私たちもその試みから無縁なはずはありません。あらゆる神のことばに逆らう教えや本、学説は私たちの回りにその浸透を許されています。そして、神が望んでおられるのはそれにもかかわらず、神のことばにとどまる人々なのです。他の聖書の箇所

では、永遠の命に至る道が狭いことが描かれています。以下の通りです。

マタイ7:13 狭い門からはいりなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこからは行って行く者が多いのです。

7:14 いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見いだす者はまれです。

何故命にいたる門は小さく、その道は狭いのでしょうか？その一つの理由は神のことばに対して積極的に惑わしや偽りを語るサタン、蛇の存在が許されているからです。彼の惑わしにより、多くの人が偽りをつかんでしまうでしょう。何故惑わされるのか？その理由はエバのように、神のことばに対してあやふやであり、堅く神のことばにとどまろうとしないからです。しかし、堅く神のことばにとどまり、神のことばを真実とする人が正しく永遠の命を得ることを知しましょう。

個人的なことですが、私も自分が初めて聖書のことばを真実と信じ、受入れた日があります。まだ、若い学生の時です。私も学校で進化論やら、聖書と違った教えを色々聞いたことはあったのですが、しかし、その日、夏のキリスト教キャンプで聖書の話聞いたとき、このことばを真実とし、受入れることにしました。そのことは私の人生で最良の決断をした日だと思っています。神のことばは真実であり、その日、神のことばを心に受入れた日以来、私は人生の真実やら神の存在、人生でもっとも大事なことがわかるようになりました。神が私の心に語り、わかるようにしてくださったのです。そうです、この方を信じ、神のことばを真実とすることに祝福があります。以上



アダム、エバを惑わす蛇

聖書の中の人々「ロト」

ロトは、信仰の父と呼ばれたアブラハムの甥にあたります。アブラハムの父テラー族は、カルデアの大都市ウルから、シリア北部の町ハランに移り住んでいました。しかし、神がアブラハムに、生まれ故郷と父の家を捨てて神が示す約束の地カナンに行くように命じられます。その時、甥であるロトもアブラハムと行動を共にしたのです。

ロトのことは、創世記11章～14章、19章に記されています。新約聖書のペテロの手紙第二では義人ロトと呼ばれています。当初ロトはアブラハムと共にいましたが、多くの羊や牛の群れを持つと、お互いの牧者たちと争いが起こるようになります。そこで争いを避ける為ロトは、東の方の肥沃なヨルダンの低地を選びそこに移動し、アブラハムはカナンの地に移りました。

その後、ロトは近くのソドムと言う商業都市に移住しますが、そこは「ところが、ソドムの人々は、よこしまな者で、主に対しては非常な罪人であった。」(創世記13:13)とあるような、性的に墮落した悪徳の町でした。英語で男色、獣姦など自然に反した性愛、性的に墮落していることをソドミー(sodomy)と言います。この悪徳の町ソドムが語源となっています。

創世記18章でアブラハムに神様は、ソドムに事について「ソドムとゴモラの叫びは非常に大きく、また彼らの罪はきわめて重い」とソドムとゴモラの町を滅ぼすことを語られました。アブラハムは、ロトたちがいる町を救おうと神様に懸命にとりなします。もしこの町に10人の正しい人がいたなら、その人のゆえに町全部を許そう、と神さまはアブラハムに約束されました。しかし10人はいなかったのです。創世記19章で、神様の命令でソドムの町を訪れた二人の御使いを、ソドムの門の所にいたロトが天使とは気付かず家に招待し丁重にもてなします。墮落したソドムの町でロトだけが、神の戒めを正しく守る人だったのです。そしてソドムの町中の男たちが、ロ

トの家にいる御使いに対して、なぶり者にして性的に辱めてやる、とロトの家の前で騒ぎ立てます。レビ記18章22節に「あなたは女と寝るように、男と寝てはならない。これは忌みきらうべきことである。」とあるように神様の前では性的な墮落、同性愛は非常に重い罪です。

御使いはロトに、神の命令でこの町を滅ぼすので家族と共にこの町から逃れるようにと告げます。そして狼狽するロトと妻と娘二人を町から連れ出します。御使いは、「いのちがけで逃げなさい。うしろを振り返ってはいけない。この低地のどこでも立ち止まってはならない。」と警告します。神の憐れみによってロトは妻と娘二人と町から脱出することができたのです。家族は小さな町ツォアルに逃れました。彼らが町に着いたので、主はソドムとゴモラの町に硫黄の火を降らせ、これらの町々と住民たちすべてを滅ぼされました。その時、ロトの妻が後ろを振り返ってはならないという禁を破ります。彼女は振り返ったため塩の柱になってしまいました。その後ロトと娘二人は、ツォアルの町から山の洞窟に移り住みます。しかし、墮落したソドムの影響を受けていた娘二人はこのままでは子孫が残せないと考え、ロトを泥酔させ子どもをもうけます。その子供のアモンとベン・アミはのちにアモン人、モアブ人の先祖となり、イスラエルの民に敵対する存在となるのです。そして悪徳の故に滅ぼされたソドムとゴモラの町は、今現在、死海と呼ばれています。



ソドムから逃げるロト

イエス・キリストに出会う「捕えられたイエスと逃げた弟子達」

イエスは、ご自分が十字架にかけられることは知っておられました。12弟子たちに、ご自分がエルサレムで祭司長、律法学者、長老たちに捕えられ死刑に定められ、異邦人(ローマ人)に引き渡され、十字架にかかり、そして3日後によみがえる、ということを経ても語られました。イエスが死刑になる意味は、マルコ10:45「人の子が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです。」とあります。イエスの十字架の死は、すべての人々の罪を負い、人を滅びから救う、ということです。

このことをイエスが語られた時、弟子たちは全く理解できなかったと聖書に記されています。弟子たちは神の御子イエスを信じていましたが、イエスが死刑になるのではなくイスラエルの王となりローマ帝国を倒してくれると考えていたのです。過ぎ越しの祭りの前、イエスは十字架の時を悟り、最後の晚餐を12弟子と持たれました。イエスは、ご自分がもうすぐ死刑になること、12弟子の中でイエスを裏切る者(イスカリオテ・ユダ)がいることを告げられます。そして残りの11人もイエスにつまずくと告げられます。弟子たちは驚き否定します。マルコ14:29~31には、

すると、ペテロがイエスに言った。「たとい全部の者がつまずいても、私はつまずきません。」イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。あなたは、きょう、今夜鶏が二度鳴く前に、わたしを知らないと言います。」ペテロは、力を込めて言い張った。「たとい、ごいっしょに死ななければならぬとしても、私は、あなたを知らないなどとは決して申しません。」みなのもも、そう言った。とあります。

その後、宗教指導者達から差し向けられた弟子イスカリオテ・ユダと群衆、役人たちがイエスを捕えようと現れます。筆頭弟子のペテロは剣を持って対抗しようしますが、イエスがそれを止め彼らに捕えられます。マル

コ14:50に「すると、皆がイエスを見捨てて、逃げてしまった。」とあります。弟子たちはつまずいたのです。

逃げたペテロはその後をつけていき、捕えられたイエスのいる大祭司の家の庭に入り込み、役人たちと共に火にあたっていました。しかし大祭司の女中や周りの者たちがペテロのことを「イエスの仲間だ」と次々に言い始めます。ペテロは違うと三度否定した時に鶏が鳴きます。イエスが振り向いてペテロを見つめられました。ペテロはイエスが言われたことを思い出します。ルカ22:63には「彼は、外に出て、激しく泣いた。」とあります。

イエスには弟子たちが、逃げてしまうことはわかっていました。イエスは最後の晚餐の時、愛する弟子たちが後になって悟るようにと、これから起こる事を語られました。そして、未熟な弟子たちの為に祈られたのです。イエスを三度知らないと言ったペテロにも、イエスは「しかし、私は、あなたの信仰なくならないように、あなたのために祈りました。だからあなたは、立ち直ったら、兄弟たちを力づけてやりなさい。」(ルカ22:32)とされました。

今も同じように主イエスは信じる人々のために祈ってくださいます。そして逃げ出した11人の弟子たちは、死からよみがえられたイエスと会い大きく変えられていきます。



イエスを否定するペテロ

キリストを信じた体験談 『バスの待合所で』 by S

もう、大分前のことなのでうろ覚えなのですが・・・某クリスチャンのご婦人の話なのですが・・・でも、良いお話でしたので、話をしたいと思います。

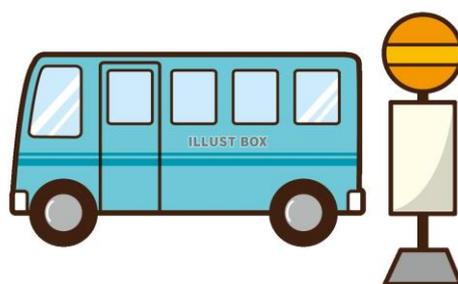
その日、その方は自宅に帰るために路線バスを待っていたそうです。待合所には他にも何人かの方がおられたようですが、ふと、その時に心の中で、「どこに立ったら良いでしょうか？」と神さまにお祈りしたそうです。そして「ここかな？」と何となく思う所に立って、バスを待っていたそうです。しばらくすると・・・何か落下物のようなものが、ちょうど待合所に落ちてきたそうです。しかしそのご婦人の所は、ギリギリセーフで、ケガをすることもなく、守られたそうです。その体験を通して、「イエスさまは素晴らしい。私がバスをどこで待ったらよいか、その立つ位置まで示してくださった」ということをおっしゃっていました。そしてそのことばは、のちに私の信仰生活にも、良い意味合いで大いに影響を与えるものとなりました。

ところで先日、礼拝のメッセージを通して学びをしました。どんな学びか？と言うと・・・私たちの目には見えませんが、

神さまの命令を守る「天使」が沢山いて、その人の行いに応じて、良い報い&悪い報いをする、ということをお教えされました。きっとそのご婦人は、神さまから「良し！」とされて、天使が遣わされて、そのような危険から守られたのでは？と思います。

また、こういうことって、もしかするとクリスチャンの特権とも言えるのでは？と思います。ご婦人の証やメッセージを通して、クリスチャンになって本当に良かったなあと、そして神さまの守りというのは真に素晴らしい！と改めて思いました。さいごに聖書のことばをひとつ読んで、終わりにします。

91:11 まことに主は、あなたのために、御使いたちに命じて、すべての道で、あなたを守るようにされる。(旧約聖書[新改訳]:詩篇91篇11節)



バスの待合所

聖書の教えのエッセンス

<全ての人の人生に2つの定まったことがあります>

それは、どのような人も必ず死ぬこと、さらに死後誰でも必ず神の前で裁き(裁判)の座につくことです。裁判の結果、ある人は永遠の命を受け、ある人は火の池に投げ込まれます。

ヘブル 9:27 そして、人間には、一度死ぬことと死後にさばき(裁判)を受けることが定まっているように、

私たちはそのさばき(裁判)を通して、今の人生で犯したあらゆる罪に関して申し開きを行う必要があります。

<死後多くの人が火の池に投げ込まれます。自分の人生で犯した全ての罪を火の池の罰で償うようになります>



黙示録 20:15 いのちの書に名のしるされていない者はみな、この**火の池**に投げ込まれた。

マタイ7:13 狭い門からはいりなさい。**滅びに至る門は大きく**、その道は広いからです。そして、そこからは行って行く者が多いのです。

私たちはその日、自分の人生で犯したあらゆる罪や、不正、嘘、意地悪、悪口、陰口、非難、不満の罪の代価を全て火の池の罰で払うようになります。

<神は私たちが滅びに至らないため、救いの道を用意しておられます>



それは、私たちの罪の身代わりとしてキリストが十字架で死なれたという方法です。聖書によれば、キリストは神のひとり子(たった一人の子供の意味)なのですが、神はその命を犠牲にして私たちに救いの道を用意してくださった、ということなのです。以下のことばの通りです。

ロマ4:25 主イエスは、私たちの**罪のために死に渡され**、私たちが義と認められるために、**よみがえられた**からです。

ヨハネ5:24 まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしの**ことばを聞いて**、わたしを遣わした方を信じる者は、**永遠のいのちを持ち**、**さばきに会うことがなく**、死からいのちに移っているのです。

<キリストを信じるものは死後、罪のために罰を受けることはない>

ヨハネ 3:18 御子を信じる者は**さばかれない**。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかったので、すでに**さばか**れている。

ここに書かれているように、神の御子であるキリストを信じるものはさばかれず、とがめられず、死後火の池の罰に入ることもありません。キリストが私たちの罪の身代わりになれ、罰をうけられたからです。今神に祈り、このキリストを信じ、心で受け入れましょう。神は聞いてくださいます。

<聖書の驚くべき預言！>:無料聖書通信講座案内

一聖書に書かれた未来に関する数千の預言はひとつとして外れたことがない！！

聖書はあらゆる面で人知を超えた書です。神によって書かれたとしか思えないいくつもの性質を持ちます。そのうちの一つは聖書の預言が未来を予言し、しかも全ての預言が的中し続けてきた、という事実です。

過去の歴史と比べてみるなら、過去数千という聖書の預言が成就し続けてきました。たとえば、過去の世界帝国の出現、興亡に関して聖書は預言し、それらはそのことばどおり成就してきました。例を挙げれば、過去の世界帝国バビロニア帝国の首都バビロンに関してその繁栄のまっただ中の日に聖書はそのバビロンは「荒野となり、その宮殿でジャッカルがほえ交わす」と預言しました。このことは正確に成就し、現在のイラクにあるバビロンの遺跡は荒野であり、野の獣やジャッカルの伏すところとなっています。さらに聖書はメデア・ペルシャ帝国、アレキサンダー大王に率いられるギリシャ帝国の興亡に関して、預言し、これらの預言は歴史の中で正確に成就してきました。一体、未来を語り、しかもそれが正確に成就するなどということをどんな人が行うことができるのでしょうか？聖書が神によって書かれた書でなければ、これはありえないことなのです。

さらに同じ聖書は**現在より先の未来に関する**預言を語ります。終末の日に「獣」と呼ばれる世界帝国が出現し、**全世界がその支配の下に入る日**を預言しているのです。さらに聖書は私たちの死後の運命に関する預言も語ります。今まで決して外れることのなかった聖書が語る未来に関することばとともに耳を傾けてみませんか？



未来の世界帝国を預言する聖書ダニエル書の像

当聖書協会では、毎月5名の方限定で無料の聖書通信講座をお送りしています。ご希望の方は以下へ記載の上、申し込みください。セールス等の勧誘はありません、当協会は、家を回るものみの塔とは違います。

無料聖書通信講座申し込みクーポン券 (クーポン番号:RE180101)

申込書

「私はクーポン券同封の上、(クーポン番号記載の上)、無料の聖書通信講座へ申し込みます」

住所：

名前：

電話：

上記を記載の上、以下まで郵送もしくはメール、電話で申し込みください。

183-0044 東京都府中市日鋼町1-3-17-304 聖書通信協会

mail: koukanojisjan@yahoo.co.jp tel. 042-364-2327